

葛西第一地区だより

第73号
発行
青少年育成葛西
第一地区委員会
編集
研 修 部

事務局
葛西事務所
地域サービス係内
中葛西3-10-1
TEL.(3688) 0434(直)

昨年は悪天候のため中止された陸上競技大会は、快晴のもと第34回大会が1月26日(日)にスピアーズえどりくフィールド(江戸川区陸上競技場)で行われ、

小学生から中学生まで約320人が参加しました。風もあり寒さを感じる中、半袖で頑張る姿も見えました。

これまでご来賓に江戸川区長はじめ区議らをお招きし、区長による模擬レースがありました。今年から町自治会長をはじめとした地元の関係者や、学校関係者の方々をご招待させていただきました。



開会式では杉浦修第一地区委員長のあいさつに続き、船堀地区自治連絡協議会の島矢謹爾会長か

		50m・100m競走	走り幅跳び	走り高跳び	ドッジボール投げ	1000m・1500m競走
小学1・2年	男	1位 松本 碧人	秋好航太郎		市川 正次	
		2位 鈴木健太郎	浅川 謙心		鈴木健太郎	
		3位 浅川 謙心	木原 陸斗		崎山誠一郎	
	女	1位 市川 史	原 菜々美		渡辺 結心	
		2位 二宮 奏	井上 琴葉		小山内麻遥	
		3位 井上 琴葉	二宮 奏		市川 史	
小学3・4年	男	1位 鈴木 稜	兼平 瑠大		中里 奏	須山 昂
		2位 山崎 大翔	古畑 杏樹		兼平 瑠大	白戸 統
		3位 中川 尊	中川 尊		宮内 理玖・西端 悠馬	山崎 大翔
	女	1位 春本 羽菜	—		木村 日咲	矢崎さくら
		2位 平良 朋子	—		鈴木 希海	春本 羽菜
		3位 菅原 愛結	—		加藤菜那子	齋藤 美颯
小学5・6年	男	1位 藤野 浩夢	田中 のあ	瀧川恵仁朗	杉渕 天恵	田中 のあ
		2位 森 賢十	斎藤 柊太	青木 友吾	佐藤 掬人	高比良 啓
		3位 岩崎 伶海	志村 悠	杉渕 天恵	木竜 夢翔	萬 健成
	女	1位 阿部 心春	大貫 美織	—	—	山崎 真央
		2位 高橋芽生紗	—	—	—	小中 咲弥
		3位 大貫 美織	—	—	—	—
中学生	男	1位 石中 湊大	平林 充	大長 優斗		石中 湊大
		2位 高橋 祐翔	西内 柊登	斉藤 琉翔		西内 柊登
		3位 彦田翔太郎	藤崎 稜平	藤崎 稜平		—
	女	1位 —	—	—		—
		2位 —	—	—		—
		3位 —	—	—		—

ら祝辞があり、選手代表の小中咲弥さん(宇喜田小学校6年)と斉藤耕平さん(船堀小学校6年)が力強く宣誓しました。

毎回高校生のボランティアにご協力いただいていたが、今回は残念ながら応募がなく、第一地区委員会や葛西少年野球連盟の関係者だけで運営されました。

研修部は例年、一般参加者の受付を担当していますが、以前と比べて混雑もせず参加者が減っていると感じました。

少年野球チームは参加者が多く、日ごろ練習している頑張りを見せてくれました。チーム対抗リ

チーム対抗リレー		
小学生の部	優勝	船堀ダックスクラブ
	準優勝	葛西ファイターズA
	第三位	葛西ファイターズB
中学生の部	優勝	葛西ファイターズ
	準優勝	清新ハンターズ
	第三位	みどりクラブ

※小学1・2年生は50m走、小学3年生以上は100m走を実施
※小学生は1000m走、中学生は1,500m走を実施

レーは小学生の部・中学生の部と分かれて行われ、大変盛り上がりました。今回は多くの一般参加を期待します。

青少年育成表彰

この度、当地区委員会のスポーツレク部員である松島博明さんが、日頃の活動への貢献を評価され、青少年育成表彰を受賞されました。

されるスーパードッジボール大会での審判協力をはじめ、様々なスポーツイベントなどに積極的な協力をいただいております。その尽力が認められ、今回の受賞に至りました。

もあるため注意が必要であると説明がありました。

そして、「子どもの声を尊重し、権利を守るということ」で大切なことは、自分を犠牲にしてまで子どもを優先するというのではなく、心にゆとりをもって子どもの声を聞くためにも、子どもに携わっている支援者たる大人の権利も大切であるとし、支援する側の保護の重要性も指摘いただきました。

第42回

ブロック研修会

R7.2.7 金

主催
研修部

2月7日に第42回ブロック研修会が開催され、当日は、学校関係者と地域の方々を中心に多数の方が参加しました。

今回は、一般社団法人「子どもの声からはじめよう」代表理事の川瀬信一様をお迎えし、「心の声を聴く、子どもアドボカシー」子どもの「ために」から、子どもと「ともに」をテーマにご講演いただきました。

講演は、コミュニケーションがテーマであることから、講師の指示の下、適宜、隣の席の人と意見交換し、同じ情報からでも人によって受け取り方の違いがあるとのイメージをもつて講義の理解を深めながら進みました。

子どもはなぜ声を上げることが難しいのか

子どもが大人に対しそもそも声を上げにくくなる背景には、例えば、①「聞いてもダメだと思った」、②「相談による不利益を想像し相談しにくい」、③「いじめのアンケートに嫌だったことを書いたが、何も変わらなかった」という③「相談してもムダと思った」、話を④「聞いてもらえない」、親のことを相談したら親に伝わり怒鳴られたという⑤「相談による不利益の」、職員は他の子の対応で忙しいから、迷惑をかけないように意見はなるべく言わないという⑥「大人に押し気遣いをし、相談を諦めた」経験等がある。

そして、子どもが声を上げにくい状況を放置すると、子どもの成長に深刻な影響を及ぼし、最悪命の危険に至ることもあるため、子どもの声を尊重し、権利を守ることが大切である。この考えは、子どもの権利条約にも意見表明権として定められ、セルフ・ア

ドボカシー「子ども自身が自分の気持ちや考えを自由に表現できること」が子どもの最善の利益になるとの考えが根底にあるとの説明がありました。

子どもの声を尊重し、権利を守るということとは

子どもの声を尊重するということは、子どもの言うことを何でも聞くということではなく、子どもの意見表明権を尊重する観点から、大人の応答・説明義務を明確にするということの意味するものである。例えば、ダメなもの、一旦まず子どもの声を聞き、子どもの要望に心配・懸念事項があるならば、それらを大人側のメッセージとして伝えていく、それを繰り返して伝えていくことが重要である。そして、子どもの声の尊重とは、単に子どもの考えだけでなく、子どもが発している兆候で大人が捉えることも含まれる概念であり(attentionではなくview)、赤ちゃん等話をするのができない子どもにも含まれることでした。また、注意点として、権利の主張は義務を果たしてからというものではなく、権利を保障すべき立場に負っているのが義務であって、トレードオフの関係にはないとしました。

他方で、子どもの権利を守るという意味では、子どもの権利の制限も必要になる場合もあるが、それは子どもの最善の利益を図るという目的を達成するために制限的年齢に応じた比例的な手段であるべきという学説を紹介いただきました。ここで重要なのは子どもの最善の利益とは「地域・文化によって異なる」ものであるという点を認識すべきであると海外との比較を交えつつ強調していました。また、子どもの権利を制限する反作用として、子どもの支援者が子どもの権利を侵害すること

「子どもアドボカシーとは」・「子どもアドボカシーの実践」について子どもアドボカシーについて、ここでは、「小さな声を大きくする」、「子どものありのままの声を伝える」、「スイッチのオンオフは子どもが自分でできる」と、いわばマイクのような存在であるとし、4つの理念(子どもは権利行使主体、セルフアドボカシー、ライフスタイル、差別への異議申立て)と6つの原則(エンパワメント、子ども主導、独立性、秘密を守る、機会の平等、子どもの参加)によってなされるものであるとし、これらは実は子どもが望むアドボカシーを整理したものであるとの説明がありました。

また、子どもアドボカシーの実践として、児童相談所におけるアドボカシーを説明され、その成果と課題を紹介いただきました。

締めくくり

最後に、子ども支援においては、何か子どもの問題を解決してあげようというのではなく、子どもがどういう困難に直面しているのか、なかなか答えの出ないものにも向き合い続けることが大切であるとして、締めくくりました。

このように、子どもに関わるものとして大切な子どもに対する心構え・手法についての貴重なお話を聞くことができました。





「クイズで町を知ろう」をモットーに2月9日(日)気温7度の晴天の中、第26回「迷走クイズ&ニュースポーツ」を10時から船堀第二小学校校庭にて江戸川区子ども会連合会葛西支部の皆さんと共催して開催しました。

第26回 Quiz & New Sports 迷走クイズ&ニュースポーツ

青少年部・区子連葛西支部共催



今回は、6チーム(1チーム2~7人)で計33名の参加がありました。

このイベントについてですが、クイズは開催校周辺をウォークラリーできるように題材を決めています。第一地区管内(宇喜田・小島地区、船堀地区)は広いので、開催校

を毎年変え、幅広く地域の方に参加いただいております。クイズの問題もそれぞれの地域の特色が出るのがまた魅力です。

ニュースポーツに関しては今年もフリスビーを行いました。イベント終了後もみんなで遊ぶ、配布したフリスビーをお持ち帰りいただきます。

ております。

開催にあたって、葛西消防団・船堀第二小学校PTA・葛西第二中学校の生徒の皆さんも協力してくれました。

また、今年度は開会式・閉会式の司会を葛西第二中学校の増山瑞己(ますやまみずき)さん、川上悠太(かわかみゆうた)さんのお二人にご協力いただきました。堂々とした司会進行が大変良かったです。

両種目の総合得点の結果、今年度は「あかち」チームが優勝しました。チーム名の由来は、参加されてる両家の名字から考えられたそうです。毎回、私自身では思いつかないような、参加されるお子さんたちが考えた面白いチーム名がみられるのも、このイベントの魅力です。

最後には、1位のチームにトロフィーと賞状、2~3位のチームに賞状、ボランティアの学生さんに感謝状が贈られ幕を閉じました。学校でうわさになるといいですね。

来年は第三葛西小学校で開催予定です。お楽しみに!!

【入賞チーム】

優勝 あかち
準優勝 おやじの子①
第三位 おやじの子②

町会・自治会 宇喜田新町自治会

宇喜田新町自治会は昭和50年2月に誕生した自治会です。

東西線西葛西駅北口から徒歩で15分ほどの、小島町二丁目団地、スーパーマルエー、宇喜田中央公園の周りに存在しており、子育て世代と老後の生活には便利な立地条件が整っています。教育関係としては、小学校3校、中学校3校、共育プラザ葛西等があります。

自治会設立から今年で50年

を迎えましたが、現在の自治会については、高齢化・核家族化による自治会員数の減少、役員の高齢化と後継者不足、外国人への対応等の課題があります。

当自治会としては、地域や子どもたちの交流の為に青年部と子ども会合同で餅つき大会を稲荷神社で行っております。

これからも住んで良かった自治会を目指し、役員、協力者一同頑張って活動したいと思います。今後とも宜しくお願い致します。

(宇喜田新町自治会)

会長 堀 正彦

学校紹介 松江第一中学校

本校は「すべての生徒が安全・安心に生活し、夢や希望に邁進できる学校」を目指して

おります。生徒には出会いを大切にしながら、自ら挑戦することにより、逞しさを身につけ、大きく成長してほしいと願っています。5月の運動会、10月の合唱コンクールでは生徒たちが中心となり練習の成果を最大限に発揮しようと意欲的に準備を行い、主体的に創り上げる学校行事を実施することができました。また、本校は「蓮池」があることで有名です。心のふる里

でもある「蓮池」を中心にくの方々が集まり、いつも本校を温かく包み込んでくれています。本校が地域・保護者の皆様、多くの方々に支えられ、見守られていることに心より感謝しております。生徒一人一人を大切にすることを実践し、地域や社会から信頼される学校であるために全力を尽くしていく所存です。今後ともご理解、ご協力のほどよろしくお願い致します。



(松江第一中学校)

校長 瀬戸 完二

スポレク部・活動報告

町会・自治会対抗卓球大会

日程・2月23日(日)

会場・葛西第二中学校体育館

【団体戦】参加チーム数7チーム

優勝 小島町会Aチーム

準優勝 宇喜田十八軒自治会

三位 西葛西ハイッ自治会

【混合ダブルス】参加ペア数22ペア

優勝 畠山末治・林 静子

準優勝 松本博文・榎 智江

三位 梅澤 満・前田美緒

榎井慎也・佐藤広美



第24回スーパードッジボール大会

参加者募集!!

毎年恒例となりましたスーパードッジボール大会を、今年も下記の日程で開催いたします。みなさん奮ってご参加ください!!

主催：青少年育成葛西第一地区委員会
日時：令和7年6月8日(日)
場所：江戸川区スポーツセンター
時間：午前9時(予定)
参加費：無料

詳しくは「青少年育成葛西第一地区委員会」で検索!!

編集一後一記

子ども一人ひとりの笑顔のために日々行事の運営にご尽力くださる皆さまに改めて感謝いたします。引き続きどうぞよろしく願いいたします。(研修部〇)